

演習問題 1.12

式 (1.49) と式 (1.50) を用いて、

$$E[x_n x_m] = \mu^2 + I_{nm} \sigma^2 \quad \cdots (1.130)$$

を示せ。ただし、 x_n と x_m は、平均 μ 、分散 σ^2 のガウス分布から生成されたデータ点を表し、 I_{nm} は $n = m$ のとき、 $I_{nm} = 1$ であり、それ以外では、 $I_{nm} = 0$ であるとする。これから式 (1.57) と式 (1.58) を証明せよ。

$$E[x] = \int_{-\infty}^{\infty} N(x | \mu, \sigma^2) x dx = \mu \quad \cdots (1.49)$$

$$E[x^2] = \int_{-\infty}^{\infty} N(x | \mu, \sigma^2) x^2 dx = \mu^2 + \sigma^2 \quad \cdots (1.50)$$

$$E[\mu_{ML}] = \mu \quad \cdots (1.57)$$

$$E[\sigma_{ML}^2] = \left(\frac{N-1}{N} \right) \sigma^2 \quad \cdots (1.58)$$

また、証明には、以下の式も使用する。

$$\mu_{ML} = \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n \quad \cdots (1.55)$$

$$\sigma_{ML}^2 = \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N (x_n - \mu_{ML})^2 \quad \cdots (1.56)$$

$$E[x + z] = E[x] + E[z] \quad \cdots (1.128)$$

[解]

まず、式 (1.49) と式 (1.50) を用いて、式 (1.130) を証明する。

○ $n = m$ のとき

式 (1.130) の左辺は、

$$E[x_n x_m] = E[x_n^2]$$

となる。ここで、上記の式に、式 (1.50) を適用すると、

$$= \mu^2 + \sigma^2$$

$n = m$ のとき、 $I_{nm} = 1$ であるので、

$$= \mu^2 + I_{nm} \sigma^2$$

が示せた。

○ $n \neq m$ のとき

x_n と x_m は独立であるから、式 (1.130) の左辺は、

$$E[x_n x_m] = E[x_n] E[x_m]$$

となる。ここで、上記の式に、式 (1.49) を適用すると、

$$= \mu \cdot \mu = \mu^2$$

$n \neq m$ のとき、 $I_{nm} = 0$ であるので、

$$= \mu^2 + I_{nm} \sigma^2$$

以上から、

$$I_{nm} = \begin{cases} 1 & (n = m \text{ のとき}) \\ 0 & (n \neq m \text{ のとき}) \end{cases}$$

であるとき、式 (1.130) が示された。

次に、式 (1.57) を証明する。式 (1.57) の左辺は、式 (1.55) を用いて、

$$\begin{aligned} E[\mu_{ML}] &= E \left[\frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n \right] \\ &= \frac{1}{N} E \left[\sum_{n=1}^N x_n \right] \\ &= \frac{1}{N} E[x_1 + x_2 + \cdots + x_N] \end{aligned}$$

式 (1.128) の変形により、

$$= \frac{1}{N} \{ E[x_1] + E[x_2] + \cdots + E[x_N] \}$$

と書き直せる。ここで、式 (1.49) より、

$$\begin{aligned} &= \frac{1}{N} \cdot N \cdot \mu \\ &= \mu \end{aligned}$$

となる。以上より、式 (1.57) が示せた。

最後に、式 (1.58) を証明する。式 (1.58) の左辺は、式 (1.55) , (1.56) を用いて、

$$E[\sigma_{ML}^2] = E \left[\frac{1}{N} \sum_{n=1}^N (x_n - \mu_{ML})^2 \right]$$

$$\begin{aligned}
&= E \left[\frac{1}{N} \sum_{n=1}^N \left(x_n - \frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] \\
&= E \left[\frac{1}{N} \left\{ \sum_{n=1}^N \left(x_n^2 - \frac{2}{N} x_n \sum_{n=1}^N x_n + \frac{1}{N^2} \left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right) \right\} \right] \\
&= E \left[\frac{1}{N} \sum_{n=1}^N x_n^2 - \frac{2}{N^2} \sum_{n=1}^N x_n \sum_{n=1}^N x_n + \frac{1}{N^3} \sum_{n=1}^N \left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] \\
&= \frac{1}{N} E \left[\sum_{n=1}^N x_n^2 \right] - \frac{2}{N^2} E \left[\left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] + \frac{1}{N^3} E \left[N \cdot \left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right]
\end{aligned}$$


... ※

と書き直せる。ここで、上記の式の各項を解いていく。第一項については、式 (1.50) と式 (1.128) より、

$$\begin{aligned}
\frac{1}{N} E \left[\sum_{n=1}^N x_n^2 \right] &= \frac{1}{N} E [x_1^2 + x_1^2 + \cdots + x_N^2] \\
&= \frac{1}{N} (E [x_1^2] + E [x_2^2] + \cdots + E [x_N^2]) = \frac{1}{N} \cdot N (\mu^2 + \sigma^2) = \mu^2 + \sigma^2
\end{aligned}$$

となる。第二項については、

$$\begin{aligned}
&\frac{2}{N^2} E \left[\left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] \\
&= \frac{2}{N^2} E [(x_1 + x_2 + \cdots + x_n) (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)] \\
&= \frac{2}{N^2} E \left[\sum_{n=1}^N x_n^2 + 2 (x_1 x_2 + x_1 x_3 + \cdots + x_1 x_n + x_2 x_3 + \cdots + x_2 x_n + \cdots + x_{N-1} x_N) \right]
\end{aligned}$$


多項定理より、 ${}_N C_2$ 個

$$\begin{aligned}
&\left(= \frac{2}{N^2} E \left[\sum_{n=1}^N x_n^2 + 2 \sum_{i=1}^{N-1} \sum_{j=i+1}^N x_i x_j \right] \right) \\
&\left(= \frac{2}{N^2} \left\{ E \left[\sum_{n=1}^N x_n^2 \right] + 2 E \left[\sum_{i=1}^{N-1} \sum_{j=i+1}^N x_i x_j \right] \right\} \right)
\end{aligned}$$

と整理でき、式 (1.130) より、

$$\begin{aligned}
&= \frac{2}{N^2} \{ N (\mu^2 + \sigma^2) + 2 \cdot {}_N C_2 \mu^2 \} \\
&= \frac{2}{N^2} \{ N (\mu^2 + \sigma^2) + 2 N (N - 1) \mu^2 \} \\
&= \frac{2}{N} (N \sigma^2 - \sigma^2)
\end{aligned}$$

となる。第三項については、第二項と同じように整理でき、

$$\frac{1}{N^3} E \left[N \cdot \left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] = \frac{1}{N^2} E \left[\left(\sum_{n=1}^N x_n \right)^2 \right] = \frac{1}{N} (N \sigma^2 - \sigma^2)$$

となる。よって、式 ※ は、以下のように整理でき、

$$\begin{aligned}
(\text{※}) &= \mu^2 + \sigma^2 - \frac{2}{N} (N \sigma^2 - \sigma^2) + \frac{1}{N} (N \sigma^2 - \sigma^2) \\
&= \frac{N-1}{N} \sigma^2
\end{aligned}$$

となる。以上から、式 (1.58) が示せた。

【 二項定理 】

$(a + b)^n$ を展開したとき、 $a^{n-r}b^r$ の係数は、 ${}_n C_r$ となる。ゆえに、一般項は ${}_n C_r a^{n-r}b^r$ となり、 $r = 0 \sim n$ を満たす。展開式を全部記述すると、

$$\begin{aligned}
(a + b)^n &= {}_n C_0 a^n b^0 + {}_n C_1 a^{n-1} b^1 + {}_n C_2 a^{n-2} b^2 + \dots \\
&\quad + {}_n C_r a^{n-r} b^r + \dots + {}_n C_{n-1} a^1 b^{n-1} + {}_n C_n a^0 b^n
\end{aligned}$$

となり、展開式をシグマ表記すると、

$$(a + b)^n = \sum_{r=0}^n {}_n C_r a^{n-r} b^r$$

で表される。

【 多項定理 】

$(a + b + c)^n$ を展開したとき、 $a^p b^q c^r$ の係数は、 $\frac{n!}{p! q! r!}$ となる。ゆえに、一般項は

$\frac{n!}{p! q! r!} a^p b^q c^r$ となり、 $p + q + r = n$, $0 \leq p, q, r \leq n$ を満たす。展開式をシグマ表記すると、

$$(a + b + c)^n = \sum_{\substack{p+q+r=n \\ 0 \leq p, q, r \leq n}} \frac{n!}{p! q! r!} a^p b^q c^r$$

で表される。

